

市民自らの政策を持とう会 第1回個人演説会 2013.3.16
開会のあいさつ

河井弘志

何人かの人に相談しながら、この会を開催することになりました。タイトルは「市民自身の政策を持とう会」。私たちが実際に行動するときには政策みたいなものがなければならないが、現在いわれている政策にはどこまで信用できるかわからないものが多い。自分自身の政策を持つように考えなければいけないのではないかな。そういう大前提でこのタイトルを掲げました。

「個人演説会」と「協議する」という構成の趣旨について。

- 1 今閉塞状態になって、何をしたらいいのかわからなくなった、という状態がある。答えはみえないが、そこから答えを引き出す努力をはじめ必要がある。
- 2 会議での発言は断片的な意見になることが多い。言いたいことをみんな言ってもらわないと、その人の考えの全体像がつかめないだろう。
- 3 組織や政党に入っている人の場合、団体の考え方を優先して、自分の考え方を控える傾向がある。それでは本当の自分の考えはでてこないのではないかな。
- 4 議論中、一番大事なことは何かかわからなくなり、目的意識が別のところに移ってしまうことが多い。最も大事なことはなにかを忘れないようにしなければならない。
- 5 現在の自分の考えはそれが間違っているかもしれない。自分の意見を押し通そうとするだけでなく、他の人の考えも聞いてみようという構えも必要である。
- 6 議論して、意見が違うことがわかったところで会議が終わることが多い。なぜ話し合っただけで一致できる答えを探すことをしないのかと思う。とことん話し合うことが必要だろう。
- 7 ひとりひとりの考えのなかに、新しい重要な意見がないか、探していく努力をしたい。この会合の発言はなるべく録音し、文字化して、読み直して考え直すための資料に使っていきたい。この点ご了承いただきたい。

今回は、第一演説を稲生慧さん、第二演説を南部博彦さんをお願いします。後半は机を口の字形にならべかえ、偉い人はない、みんなが偉いという関係で話し合いたいと思います。